

宮崎県知事 河野 俊嗣

新年を迎えて

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

皆様には、日頃から県政の推進につきまして温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。



昨年は、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大に見舞われ、県民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしました。お亡くなりになられた方と御遺族に対し、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、県独自の「緊急事態宣言」の発令や「まん延防止等重点措置」の適用により、長期間にわたって、県民や事業者の皆様にご多大なる御負担や御苦労をおかけしたところであり、改めて、皆様の御理解と御協力に心から感謝申し上げます。

水産業におきましても、外食需要の減退に伴う魚価の低迷や出荷量の減少など大きな影響を受けました。県としましては、地産地消・応援消費や滞留魚の解消などによる販売支援や経営力強化のための各種機器整備等の支援を含む補正予算を構築し、影響緩和に努めたところであります。今後も、漁業者の皆様が安心して経営ができますよう皆様に寄り添いきめ細かに支援してまいります。

本県には、人口減少対策、防災・減災、国土強靱化対策、医療・福祉の充実、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けた準備など、取り組むべき課題が山積しており、引き続き、感染防止対策を徹底するとともに、コロナ禍で疲弊した本県経済の早期回復、発展に向けて全力で取り組んでまいります。

このような中、様々な分野で、持続可能な宮崎のための土台づくりが着実に進むとともに、新たな成長につながる取組が行われています。

高速道路等については、昨年、「高千穂日之影道路」や都城志布志道路「金御岳～末吉」間が開通したことに加え、九州中央自動車道「高千穂～雲海橋」間の新規事業化や、東九州自動車道「高鍋～西都」間の一部区間の4車線化の事業化など、さらに整備が進展しました。

また、宮崎と神戸を結ぶ長距離フェリー航路は、「本県経済の生命線」として県内経済界や行政、関係機関の「オールみやざき」体制で支援し、今年中に新船2隻が就航する予定となっており、航路の維持・発展につなげてまいります。

さらに、今年1月には、新県立宮崎病院が開院予定であり、本県地域医療の拠点として、医療提供体制の充実・強化に大きく貢献することが期待されます。

昨年、本県で開催されました「国文祭・芸文祭2020」の成果を将来につなげるため、文化振興条例を制定し、地域文化の継承、発展や新たな文化の創造、文化を通じた魅力発信、共生社会の実現等を図ってまいります。

また、昨年の東京オリンピック・パラリンピックでは、感染防止対策を徹底する中で8か国の海外代表チームの事前合宿を受け入れ、それぞれの好成績に貢献しました。この経験や実績を生かし、屋外型トレーニングセンターなどの整備や充実した合宿環境の国内外への発信に取り組み、「国際水準のスポーツの聖地みやざき」として一層のブランド力向上につなげてまいります。

令和4年度の施策の展開に当たりましては、「コロナ禍からの復興と新たな成長活力の創出」「人口減少対策の取組強化」「安全・安心で魅力ある地域づくり」という3つの柱に重点を置き、コロナ禍の長期化に伴う社会の様々な変化に的確に対応しながら、皆様が未来に夢や希望を持って、心豊かに暮らすことができる社会づくりを進めてまいります。

水産業におきましては、担い手の減少に伴い、漁村地域の活力低下など様々な課題がある一方で、世界的な水産物需要の増大やコロナ禍での商品流通形態の変化など新たなビジネスチャンスも生まれております。

このような状況を踏まえ、今年度からスタートした第六次宮崎県水産業・漁村振興長期計画では、「ひなたイオバージョン」をキャッチフレーズに、「新たな波に乗り成長する水産業」を基本目標として各種施策を推進し、本県水産業の更なる成長産業化の実現を目指してまいりますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます、年頭の御挨拶といたします。

